就学前に育てておくべき力
（5歳児が3･4歳児とともにいることの意味）

初瀬基樹

今年度は、主任と一緒に熊本で年5回開催中の山田眞理子先生（九州大谷短大名誉教授･子どもと保育研究所ぷろほ所長）の子育て支援スキルアップセミナーという研修に参加させて頂いています。毎回、とても勉強になっています。

その中から、少し。

数年前、「5歳児就学」の話しが出たことがあります。現在は6歳から小学校に入学しますが、それを繰り上げて5歳から入学させてはどうかという話です。

ある幼稚園で、3歳、4歳、5歳がそれぞれの年齢（横割り）で過ごすグループと、3･4･5歳児が一緒の縦割りで過ごすグループの2通りで半年間保育を行ってみて、子どもたちに育つ力の違いを調べたことがあったそうです。

その結果、何かができるようになるといった力には、どちらもさほど大きな違いは見られず、合奏等のように、5歳児だけでじっくり取り組むものに関しては、横割りの子どもたちの方が確かに上手になったという結果が出たそうです。しかし、横割りしか経験していない子どもたちに比べ、縦割りを経験した子どもたちに大きく育った力は、「待つ力」、「ゆずる力」、「折り合う力」だったそうです。

例えば、3･4･5歳児で一緒に遊ぶ機会を作ってみると、縦割りを経験している子どもたちは、当然のように3歳児が靴を履くのを待っていることができ、時間が経っても一緒に遊んでいられるのに対して、横割りしか経験のない子どもたちは、はじめのうちは3歳児を待っててあげようとはするものの、だんだん待てなくなり、30分もすると、3歳児は先生のところに集まってしまい、5歳児は自分たちだけで遊んでいるといった姿になったのだそうです。

また、縦割りを経験しているグループでは、4歳児がお店屋さんをして、3歳と5歳のペアで1人1枚ずつコインを持ち、1人ひとつずつ買い物ができるようにして、買い物に行くというお店屋さんごっこの場面で、ある5歳児の男の子が、5歳児同士なら絶対に他に譲れない子なのに、このときは、ペアの3歳児の子が「これとこれがほしい」と二つの物をほしがり、悩んだ末に自分のコインを3歳児のために使ってあげたという事例もあったそうです。

海外では5歳児からの就学というのも珍しくありません。というのも、西洋の人たちにとって、「待つ力」、「ゆずる力」、「折り合う力」は、さほど大切に思われてこなかったからです。しかし、日本人はこれらのことをずっと大切にしてきた民族です。他人はどうなろうと自分が良ければそれでいいといった競争社会が、地球崩壊につながろうとしている今、「待つ力」、「ゆずる力」、「折り合う力」といった、これらの力をしっかり育ててから、学校へ送り出すことが就学前教育で求められていることなのではないでしょうか？

だからこそ、5歳児には3･4歳児とともに過ごすことが必要なのです。

ゆとり教育が学力低下を招いたとか、学力に関することはよく話題になりますが、昨今のさまざまな虐待や残忍な事件など、自分本位で他人を思いやる力が欠如しているとしか思えないのに、そういった思いやりの心、待つ力、ゆずる力、折り合う力をどう育てていくか？ということに焦点があてられないのはなぜなのでしょうね？

学力も大事ですが、人間として本当に育てておくべき力をどのように育てていくべきかを私たちは今後も考えていきたいと思います。